

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
37. (社)日本助産師会	2.3.8.9.	<p>2) 十代の人工妊娠中絶の予防, 3) 十代の性感染症罹患の予防, 8) 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発, 9) 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発に対して</p> <p>(1) 無料電話相談事業 全国47支部の「子育て・女性健康支援センター」、本部での思春期専門の無料電話相談を含め、1,754件の相談があった。</p> <p>(2) 出張思春期教育の実施 ①全国47支部および本部「思春期相談室」において、支部の事業として積極的に推進した。 ②①の推進に向けての教材整備のための助成(1支部10万円)を32支部に行った。 ③独立行政法人福祉医療機構の平成13年度「子育て支援基金」の助成で作成した、「中学・高校向けのビデオ教材」および「思春期教育指導マニュアル」の普及(頒布)に努めた。</p> <p>(3) 思春期相談員の育成に努める。 ①社団法人家族計画協会主催の全国「避妊と性感染症予防のための実践セミナー」(約1600名参加)、いのちの応援舎主催「いのちの応援塾(性教育セミナー)」(40名参加)に共催協力し、特に助産師の参加を促した。</p>	<p>2) 十代の人工妊娠中絶の予防, 3) 十代の性感染症罹患の予防, 8) 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発, 9) 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発に対して</p> <p>(1) 無料電話相談事業 全国47支部の「子育て・女性健康支援センター」および、本部での思春期専門の無料電話相談を行う。</p> <p>(2) 出張思春期教育の実施 ①全国47支部および本部「思春期相談室」において、支部の事業として積極的に推進する。 ②①の推進に向けての教材整備のための助成(1支部10万円)を前年度同様の32支部に行う。</p> <p>③独立行政法人福祉医療機構の平成13年度「子育て支援基金」の助成で作成した、「中学・高校向けのビデオ教材」および「思春期教育指導マニュアル」の普及(頒布)に努める。</p> <p>(3) 思春期相談員の育成に努める。 ①社団法人家族計画協会主催の全国「明日から役立つ「性」の健康教育セミナー」(約1600名参加)、いのちの応援舎主催「いのちの応援塾(性教育セミナー)」(40名参加)に共催協力し、特に助産師の参加を促す。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
38. 日本性感	3.9.感染症学会	<p>3. 十代の性感染症罹患の予防 9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 ※講師派遣 保健所・学校のセミナー・講演会などに当学会の役員・会員が講師として参加し、性感染症に関する知識を拡め、健康教育の推進を図った。 学会講師派遣イベント一覧表 2003.01-2004.05 2003.2.23:「女性の健康フォーラム」於東京国際フォーラム (熊本悦明名誉会員司会・井上正樹理事講演) 2003.3.29:「公開セミナー 若者と性と健康」於福井商工会議所(熊本名誉会員・木原正博理事講演) 2003.11.25:「第3回性の健康週間市民公開講座」於静岡県総合研修所もくせい会館(静岡県・厚生労働省・文部科学省他後援)(岩本愛吉理事・小野寺昭一常任理事講演) 2003.12.6:市民公開講座「若者の性が危ない」於長野市若里市民文化ホール(岩室紳也評議員・堀口雅子理事講演) 2004.2.1:トークライブ「ポジティブ・エイズ・トーク」於北九州市立男女共同参画センター(堀口雅子理事講演) 2004.2.12:市民公開講座「性感染症・エイズ-知ろう、話そう、予防しよう」於大泉学園ゆめりあホール(松田静治常任理事・早乙女智子評議員・根岸昌功理事講演) 2004.5.8:「市民と高校生のためのエイズ・性感染症フォーラム」於ホテル日航熊本(熊本悦明名誉会員講演)</p>	<p>3. 十代の性感染症罹患の予防 9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 ※講師派遣の継続 本年も学校・保健所等の主催する、講演会・セミナーなどに当学会の役員・会員を講師として、派遣し、性感染症の知識の普及・予防啓発活動を行う。</p>
39. 日本赤十字社	10.学校保健委員会の開催と開催への支援の強化	<p>本社で開催する青少年赤十字指導者（青少年赤十字加盟校の教諭）向けの講習会において、『健康安全プログラム』を取り上げ、具体的な指導方法の伝達を行うことで同プログラムの一層の普及を図った。 (時期及び対象人数:平成15年6月 46名 平成15年8月 34名) また、各都道府県支部が主催して、青少年赤十字メンバーやその指導者を対象に、同プログラムの講習会を実施し、健康についての意識の向上を図った。</p>	<p>* 各種講習会における青少年赤十字健康安全プログラムの普及 目的:本社で主催する講習会において、『健康安全プログラム』を取り上げ、具体的な指導方法の伝達を行うことで同プログラムの一層の普及を図る。 対象者:青少年赤十字指導者（青少年赤十字加盟校の教諭） (時期、人数:6月及び8月、各50名程度) また、各都道府県支部が主催して、青少年赤十字メンバーやその指導者を対象に、同プログラムの講習会を実施し、健康についての意識の向上を図る。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の実績	15年度の実績	16年度の実績
43. (財)日本母子衛生助成会	2.3.4.5.6.7.8.9.	<p>2 十代の人工妊娠中絶の予防 3 十代の性感染症罹患の予防 4 15歳の女性の思春期やせ症の発生予防と治療の促進 5 薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発 6 十代の禁煙の防止 7 十代の飲酒の防止 8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 9 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 *パンフレットの作成、配布 目的：高校男女生徒に「健康は自分で育て、自分で守ろう」との意識向上を図ることを目的に、パンフレット「ティーンズヘルスノート」を作成 配布対象者：自治体・高等学校を通じて住民・生徒に配布 配布部数：90万部 効果：思春期からの健康、性感染症等についての正確な情報と健康維持について、高等学校の保健体育、家庭の副読本に利用されています。 また、自治体からの住民の思春期の健康等に関する普及啓発を図るリーフレットとしてもご活用いただいています。</p>	<p>2 十代の人工妊娠中絶の予防 3 十代の性感染症罹患の予防 4 15歳の女性の思春期やせ症の発生予防と治療の促進 5 薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発 6 十代の禁煙の防止 7 十代の飲酒の防止 8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 9 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 *パンフレットの作成・配布を継続実施</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
44. 日本母性衛生学会	2.3.8.9.10.12.60.	<p>思春期の保健対策の強化と健康教育の推進</p> <p>1) 学会誌での取組</p> <p>3 十代の性感染症罹患の予防 「母性衛生」44巻1号 高校生のクラミジア感染症に関する認識－性行動、避妊の実態の分析を中心に（藤井奈緒他）</p> <p>8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 * 「母性衛生」44巻1号 青年期女性の低用量経口避妊薬（OC）のイメージとその普及に関連する要因の研究（木戸久美子他） 女子高校生に対する性教育の実際とその評価（三島みどり他）</p> <p>60 栄養・食生活の改善 * 「母性衛生」44巻2号 ・思春期女性の性成熟と栄養・食生活の関連（岡崎愉加他）</p> <p>2) 総会・学術集会での取組 参加人数 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など) 開催 第44回日本母性衛生学会学術集会 期日 平成15年10月9・10日 場所 栃木県宇都宮市栃木県総合文化センター</p> <p>8. 避妊法に対する若者の知識の普及・啓発 9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発</p> <p>「目的」 効果あるSexuality教育の確立および道德教育の再生の提言を行う。</p> <p>「効果」 理事長講演（理事長岩崎寛和）において本学会における性教育に関する取り組み方が示された。</p>	<p>1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 学会誌での取組 年4回発行予定の学会誌「母性衛生」での取組を推進する。</p> <p>総会・学術集会での取組 本年度第45回日本母性衛生学会学術集会において下記の講演を実施し、これらのテーマについて会員の理解と対策を深めるとともに、総合討論を行い検討考察する。 予定参加人数 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など) 開催 第45回日本母性衛生学会学術集会 期日 平成16年9月16・17日 場所 東京都 京王プラザホテル</p> <p>Virtual Image 時代の思春期の性の問題とその対応と題しシンポジウムを行い、総合討論を行う。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
44. 日本母性衛生学会		<p>2. 十代の人工妊娠中絶の予防 「目的」 望まない妊娠の予防および性感染症予防の対策にあたっての基礎資料とするため。 「効果」 上記のテーマについて渡辺尚先生（自治以下大学産科婦人科助教授）より教育講演 においてコンドームの必要性が述べられた。また、北村邦夫先生（日本家族計画協会クリニック所長）からはサテライトシンポジウムにおいて日本人の避妊と中絶の現状が報告された。</p> <p>3. 8.9.10.12 シンポジウム「コミュニティベースの性教育—わたしのからだ・あなたのからだ」 カフェで話そう—STDの予防— 小中高生も大人も学ぶリプロヘルス 性教育絵本で伝える「うまれるいのち・つながるいのち」 ピアカウンセリング シンポジスト赤枝恒雄、鈴木幸子、きくちさかえ、木塚次子先生を中心に総合討論を行った。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
47. (社)日本薬剤師会	5.6.	<p>5. 薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発</p> <p>①「薬剤師のための薬物乱用防止研修会」の開催 目的（テーマ）：児童・生徒の薬物乱用防止に向けた指導者の育成 開催数：1回（愛知県で開催） 参加人数：302名（学校薬剤師など） 効果：「薬物乱用防止研修会」を受講した薬剤師が講師となり、学校教育の一環として、児童・生徒対象の薬物乱用防止の啓発活動を実施</p> <p>②「薬と健康の週間」（10月17～23日）において、薬物乱用防止をテーマとした各種事業を各都道府県薬剤師会等で実施。 効果：シンナー、覚せい剤等の恐ろしさを周知し、特に青少年に対して薬物乱用防止を啓発</p> <p>6. 十代の喫煙の防止</p> <p>①パンフレット「喫煙と健康」及び「いや！たばこの煙」の作成・配布 広く一般国民を対象としたパンフレット「喫煙と健康」と、主に妊婦や未成年・父母・学校を対象とした「いや！たばこの煙」を作成し、「いいお産の日シンポジウム」（平成15年11月3日、於：日本教育会館）、平成15年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究推進事業シンポジウム（平成16年2月24日、於：労働スクエア東京）、その他各種キャンペーン等で配付。平成15年度の配付実績は、「喫煙と健康」、「いや！たばこの煙」とも各54,000部。 効果：受動喫煙による健康被害の説明に留まらず、喫煙防止を広く啓発</p>	<p>5. 薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発</p> <p>①「薬物乱用防止研修会」を実施（継続） 目的（テーマ）：児童・生徒の薬物乱用防止に向けた指導者の育成 開催数：1回（長崎県で平成16年9月5日に開催） 参加人数：約200名（学校薬剤師など） 効果：「薬物乱用防止研修会」を受講した薬剤師が講師となり、学校教育の一環として、児童・生徒対象の薬物乱用防止の啓発活動を実施</p> <p>②「薬と健康の週間」（10月17～23日）において、薬物乱用防止をテーマとした各種事業を各都道府県薬剤師会等で実施。 効果：シンナー、覚せい剤等の恐ろしさを周知し、特に青少年に対して薬物乱用防止を啓発（継続）</p> <p>6. 十代の喫煙の防止</p> <p>①パンフレット「喫煙と健康」及び「いや！たばこの煙」の作成・配布（継続） 広く一般国民を対象としたパンフレット「喫煙と健康」と、主に妊婦や未成年・父母・学校を対象とした「いや！たばこの煙」を作成し、各種キャンペーン等で配付。 効果：受動喫煙による健康被害の説明に留まらず、喫煙防止を広く啓発</p>
47. (社)日本薬剤師会		<p>②「喫煙防止啓発パネル」の無償貸与 禁煙教育に用いるための「喫煙防止啓発パネル」を作成し、都道府県薬剤師会及び支部薬剤師会に対して無償貸与。各種イベントで展示・活用。 開催数：8道県10回（北海道1回、青森県1回、岩手県2回、福島県2回、新潟県1回、徳島県1回、福岡県1回、宮崎県1回） 効果：一般市民に対し、喫煙防止を広く啓発</p>	<p>②「喫煙防止啓発パネル」の無償貸与（継続） 禁煙教育に用いるための「喫煙防止啓発パネル」を作成し、都道府県薬剤師会及び支部薬剤師会に対して無償貸与。各種イベントで展示・活用。 効果：一般市民に対し、喫煙防止を広く啓発</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の実績	15年度の実績	16年度の実績
49. (財)母子衛生研究会		<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般 * 「母子保健指導者研修会」の実施 目的：母子保健に関する正しく且つ新しい情報の伝達。 参加人数(対象者)：10,500名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者) 開催数、方法等：46回(厚生労働省、開催地区自治体、関係団体等の後援にて開催) 全国都道府県で実施 効果、その他：妊婦や育児中の母親と直接接する関係者に最新情報を提供することで、育児不安や虐待等母子保健が直面している問題の一助となることが期待される。 * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施 目的：母子保健の懸念されている事柄について、問題提起とその対応について考える。 参加人数(対象者)：350名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者) 開催数、方法等：1回(厚生労働省、関係団体等の後援にて開催) 東京都で実施 効果、その他：各方面の専門家の意見を聞くことで、問題がより明白となり、多角的に問題に取り組めることが期待される。</p>	<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般 * 「母子保健指導者研修会」の実施 参加人数：10,500名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者)を予定。 開催数、方法等：47回(全国都道府県で実施予定) * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施 参加人数：350名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者)を予定 開催数、方法等：1回(東京都で実施予定)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
55. 日本学校保健学会	6. 十代の喫煙の防止	前年に引き続き、「学校をタバコのない場所に！」という運動を行った。 この運動のためのプロジェクトを引き続き学会内で組織しており、次年度には学校敷地内禁煙の早期実施を求める要望書の提出を予定している。	本年度も上記の活動を継続して行っていく。 すでに16の都道府県が都道府県単位の学校敷地内禁煙を実施しているが、これを除いた31都道府県の教育長宛に学校敷地内禁煙の早期実施を求める要望書の提出を行う予定である。 なお一層の普及に向けて、様々な方法で働きかけを続けていく。
59. 性と健康を考える女性専門家の会	2.3.8. 思春期の健康問題と性教育に関する専門家・一般への啓発	2. 十代の人工妊娠中絶の予防 1) 講演会を実施（北海道支部） 「思春期の子どもたちに伝えたい性の健康知識」 日 時：平成15年7月11日（金）、12日（土） 内 容：「実践的性教育講座Ⅰ、Ⅱ」「就学前幼児への性教育実践」 「性の基礎知識」「思春期の性の健康についての正しい知識をどのように伝えるか」 2) 出版物の発行（北海道支部） 『思春期の子どもたちに伝えたい性の健康知識』 内 容：上記講演会の内容に基づき作成 発 行：平成15年11月（頒価1,000円） 3. 十代の性感染症罹患の予防 1) 論文発表 野々山未希子ほか：若者の性行動とセーフセックスに関するセルフエフィカシー（自己効力感）測定尺度の作成、日本性感染症学会誌、14（1）、52-59、2003。 2) 調査研究の実施 日本版セルフエフィカシースケール（前年度作成）を使った性教育の効果について、2種の視聴覚による比較介入研究 8. 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 1) 出版物の発行 “マーガレット・サンガー”（エレン・チェスラー著 早川敦子監訳）日本評論社 2003.5.30 9. 性感染症に対する若者の知識・技術の普及・啓発 講演会を実施（北海道支部） 「エイズの現状と課題そしてピア・カウンセリングの試み」 日 時：平成15年12月7日（日） 内 容：「エイズの現状と課題」「ピア・カウンセリングの試み～仲間として～」	3.6.8. 思春期の健康問題と性教育に関する専門家・一般への啓発 3. 十代の性感染症罹患の予防 1) 論文発表 野々山未希子ほか：STD予防VTRが若者のセーフセックスに与える影響、日本性感染症学会誌、15（1）掲載予定 2) 調査研究 ・厚生労働省科研費事業 「若年者を対象とした性感染症の実態把握と蔓延防止システムの構築」に継続して協力 ・試作した日本版コンドームセルフエフィカシースケールが、普遍的に使えるよう信頼性の検証 6. 十代の喫煙の防止 1) 性教育と禁煙啓発活動を合同で行う（性教育講座の際に同時に禁煙教育や指導の講座を開催する） 8. 避妊法に対する若者の知識の普及・啓発 1) 調査研究 国内の避妊実態調査や、海外の情報収集 9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 1) STD教育用教材ビデオの製作 思春期の健康問題と性教育に関する専門家・一般への啓発 1) 広報活動 ・ニュースレターの発行（6、9、12、3月） ・ホームページ（月1回更新）

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
59.性と健康を考える女性専門家の会		<p>思春期の健康問題と性教育に関する専門家・一般への啓発</p> <p>1) 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレターの発行 <p>年間4回：2003/7/25:21号、2003/10/25:22号、2004/1/9:23号、2004/3/31:号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報提供 <p>http://square.umin.ac.jp/pwvsh/</p>	
64. (社団)日本女医会	2.9.及び3.8.	<p>十代の人工妊娠中絶の予防 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発</p> <p>* 「十代の性と健康」指導者養成講座を五回開催（第四回から第八回）</p> <p>目的：十代の妊娠中絶率の増加に伴い、増加している性感染症の恐ろしさを教え、正しい科学的知識・予防法等を徹底する。新しい手法の紹介し、地域におけるネットワーク作りにも大いに貢献した。</p> <p>参加人数（対象者）：</p> <p>第四回 132名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）</p> <p>第五回 112名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）</p> <p>第六回 198名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）</p> <p>第七回 122名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）</p> <p>第八回 226名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）</p> <p>開催数 5回</p> <p>方法等 「性と健康を考える女性専門家の会」の協力得て、さらに各県、各県医師会、各県教育委員会等の後援を得、専門性の高い講師を選定し、講演内容も受講者より極めて好評であった。</p> <p>* 性教育指導の専門指導者の養成とネットワーク作り</p>	<p>十代の人工妊娠中絶の予防 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発</p> <p>* 「十代の性と健康」指導者養成講座を東京近郊2ヶ所で開催する。</p> <p>* 地域における性教育の充実と強化およびネットワーク作り</p> <p>* 会誌に「健やか親子21」について、記事を掲載する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
67. 日本泌尿器科学会		<p>北九州泌尿器科医会特別講演 平成15年1月16日開催 小倉リーガロイヤルホテル 約100名参加 概要 健やか親子21について学会員に説明し、積極的な取組を促した。</p> <p>第33回東邦大学泌尿器科懇話会特別講演 平成15年9月13日催 東京八重洲ホール 約50名参加 概要 思春期が抱える「性」に関する種々の問題点を明らかにし、積極的な取組の必要性を強調した。</p> <p>男子思春期問題研究会会議 平成15年11月1日 石川県立音楽堂会議室 研究会委員10名が参加 概要 男子思春期に関する諸問題、特に性感染症予防のための啓発活動を日本各地で展開することについて話しあった。</p> <p>第45回岐阜泌尿器科医会特別講演 平成15年11月21日開催 岐阜会館 約100名参加 概要 健やか親子21に対する泌尿器科医の取り組むべき課題を説明した。</p>	<p>男子思春期問題研究会の活動 概要 研究会のメンバーを中心に、行政、教育現場、保健所などと連携し、一般市民に思春期に関わる諸問題とその対策について啓発する。 泌尿器科関連学会で、思春期に関する特別講演、シンポジウムを行なう。 概要 平成15年度に引き続き、各地の泌尿器科学会関連学会の際に思春期問題を取り上げる。特に、性感染症など「性」に関わる諸問題を重点的に検討する。 泌尿器科以外の専門医、教育関係者、行政との連携 概要 思春期問題を多面的に捉え、有効な施策を検討する。</p>
71. (財)日本性教育協会	2.3.8.9.	<p>2、3、8、9を、個別ではなく、一つのテーマと考え取り組んだ。 【研究会・セミナーの実施】 ・「第33回全国性教育研究大会」実施 基本テーマ「性・新たな関係の創造」 参加人数(対象者)：660名(教育、保健関係者、PTA等) 開催方法等：8月7日(水)～9日(金) 栃木県宇都宮市で実施 (全国性教育研究団体連絡協議会ととちぎ思春期研究会と共催) 特別講演「健やか親子21と性教育の取り組み」(松本清一・日本家族計画協会会長) 講演「わが国の性教育における質的転換」(高村寿子・自治医科大学教授) ・セミナー「最新Sexual Health教育の実践的進め方」実施 参加人数(対象者)：約40名(教育関係者等)計150名。 開催回数・方法：4回、当財団セミナールームで実施。 (特定非営利活動法人 ぶれいす東京と共催) ・「第5回性科学セミナー」開催 基調講演「セクシュアル・ヘルスの推進」(宮原 忍・当財団理事) ・「平成15年度世界エイズデーシンポジウム」実施 2004年11月28日(金) 参加人数(対象者)：250名(教育関係者) 開催数・方法：1回、国立オリンピック記念青少年総合センター (文部科学省、財団法人日本学校保健会と共同主催)</p>	<p>2、3、8、9を、個別ではなく、一つのテーマと考え取り組む。 【研究会・セミナーの実施】 ・「第34回全国性教育研究大会」協賛 基本テーマ「性教育、その新たな発展をめざして」 参加人数(対象)：約600名(教育、保健関係者、PTA) 開催方法等：8月4日(水)～6日(金) 山口県山口市で実施予定。 (全国性教育研究団体連絡協議会と山口県性教育研究会と共催) ・セミナー「最新Sexual Health教育の実践的進め方」を継続実施 参加人数(対象者)：各回40名(学校教育、保健関係者等) 開催回数・方法：4回、当財団セミナールームで実施 (特定非営利活動法人 ぶれいす東京と共催) ・「平成16年度世界エイズデーシンポジウム」実施予定 参加人数(対象者)：250名(教育関係者) 開催数・方法：1回、国立オリンピック記念青少年総合センターで実施 (文部科学省、財団法人日本学校保健会と共同主催)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
71. (財)日本性教育協会		<p>【研究助成と研究成果の発表】 マイノリティーの社会環境および世代によるHIV感染リスクの違いに関する研究 ——タイ北部山岳民族の性意識・性行動調査から—— 小堀 栄子（京都大学大学院医学研究科博士課程） 性被害を受けた生徒への養護教諭の対応の現状と課題 ——質的調査を通して—— 杉村 直美（愛知県立安城高等学校定時制養護教諭・名古屋大学大学院研究科） 上記の研究に助成。研究成果を第44回日本＝性研究会議で口頭発表し、論文集『日本＝性研究会議』会報第14巻1号に掲載・有料で配布（2003年11月）。</p>	<p>【研究助成と研究成果の発表】 若者のリプロダクティブ・ヘルス／ライツの確立と向上に効果的な「性（リプロ）教育プログラム」とその「評価法」 劔 陽子（産業医科大学医学部公衆衛生学助手） 高校時の性行動に及ぼす友人関係の影響の比較 五十嵐哲也（筑波大学大学院博士課程教育学研究科） 出産を決意した10代女性の実態と社会環境の課題 大川 聡子（大阪府立看護大学助手） 上記の研究に助成し研究成果を口頭発表し、論文集『日本＝性研究会議』会報第16巻1号に掲載・有料で配布予定。</p>